

平成26年1月25日

本巢市教育委員会社会教育課

1 船来山古墳群について

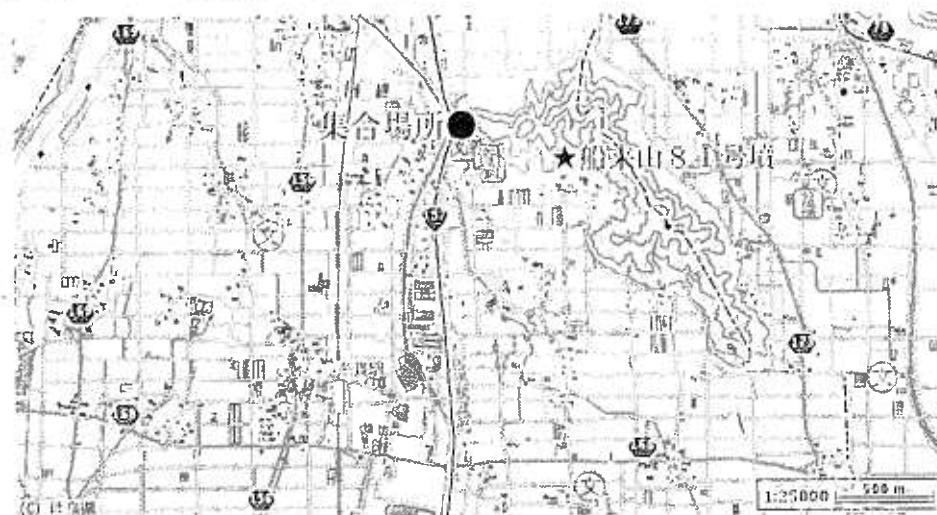
船来山古墳群は、現在、291基が分かっている群集墳です。船来山は濃尾平野の縁にあり、東西約2km、幅500mの東西に細長い独立した山です。この山は、山の尾根から、今回の81号墳のような山の谷のふもとまで、びっしりと古墳で埋め尽くされています。現在の古墳の数は、岐阜県内でも第1位を誇ります。全国の中でも第5位です。

今回の分布調査では、国指定史跡、古墳公園を目指すため、専門家による検討委員会を設置し、古墳群のすがたを明らかにすること、保護を図っていくことを目的にしています。

2 船来山81号墳について

今回測量調査を実施している船来山81号墳は、船来山の真ん中のふもと、標高約37mの場所に立地する古墳です。船来山の中でも珍しく、墳丘（土盛り）がよく残された古墳です。地権者の皆様、船来山弥勒禅寺、岐阜県立岐阜農林高等学校環境科学科の皆様にご協力いただきました。高校生と市民協働で測量調査を行っています。

今回の測量調査によって、全長約20mの円墳の可能性が高くなりました。また調査中に、新たに埴輪が発見され、古墳が造られた年代が5世紀後半（約1530年前、船来山赤彩古墳より古い）の可能性が高くなりました。



3 船来山81号墳の円筒埴輪えんとうはにわとそこから考える古墳の年代について

測量調査中に、高校生が新たに古墳の東側と南側で埴輪のかけらを発見しました。古墳の南側では未発見だったため、大発見となりました。おそらくこれらの埴輪は、81号墳に並んだ円筒埴輪の破片と思われます。古墳が造られた当時は、こうした円筒埴輪が古墳の周囲にぐるりと並べられていたと考えられ、埴輪の年代を調べることで、古墳の築造年代を推定することができるのです。

埴輪に残された痕跡（ハケメと呼ぶ調整技法など）を見ると、古墳時代中期後葉の5世紀後半～末頃のものとわかりました。同じような埴輪は、尾根上の96号墳（岐阜市側）からも出土しており、横穴式石室が採用される以前、埴輪を並べた古墳が尾根上や谷に築かれたことがわかったのです。

4 円筒埴輪底部ていぶの発見 淡輪技法（たんのわぎほう）

今回の調査中に、今まで未発見だった埴輪底部が発見されました。詳しく観察すると、



埴輪を作る時にできた、独特の痕跡が確認できます（考古学では底部設定技法といい、特定の地域や時代に生まれる技法です）。岐阜県では、大垣市遊塚中央円墳・東山田古墳など、5世紀後半から6世紀前半の古墳からみつかっています。

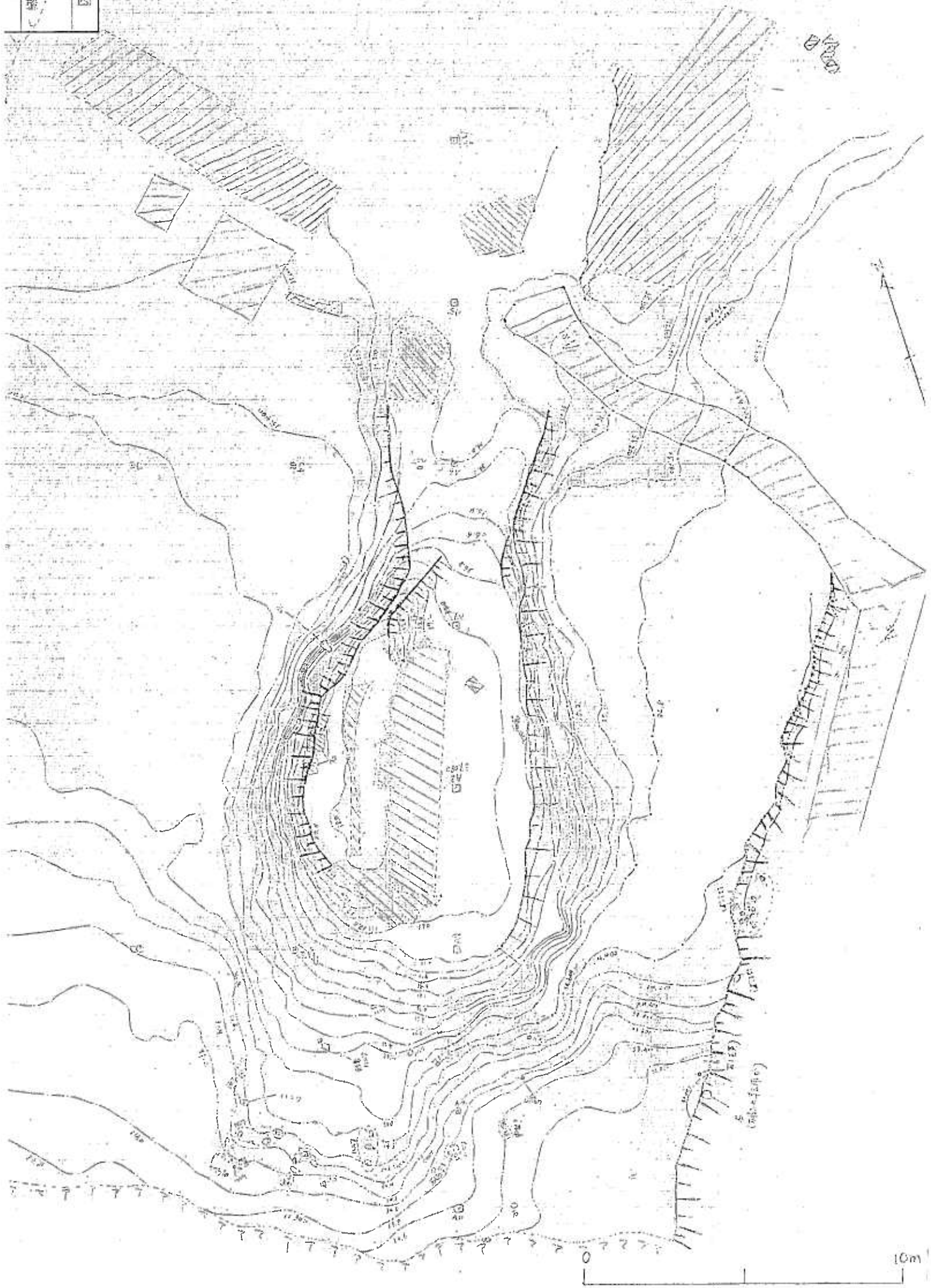
全国の中での船来山古墳群

船来山古墳群は、大阪府平尾山古墳群ひらおやま（約1407基）、和歌山県岩橋千塚古墳群いわせせんづか（約850基）奈良県巨勢山古墳群こせやま（約771基）などに続き、現在でも第5位に位置しています。過去の調査成果からすると、船来山の古墳は千基を超えるのではないかとという説もあります。

本巣市の宝、船来山古墳群！市の誇りとして取り組んでいきましょう！！

本巣市教育委員会社会教育課 電話 058-323-7764 本巣市下真桑 1000 番地

アドレス：shakai-kvouiku@city.motosu.lg.jp



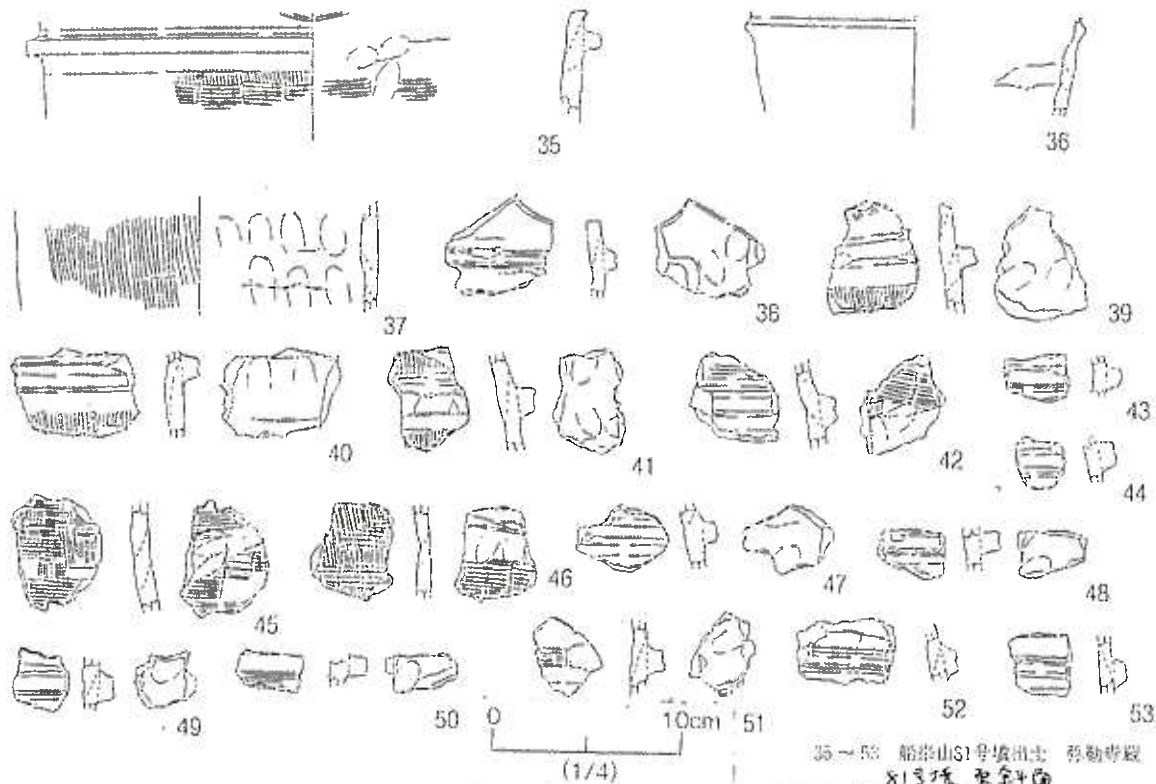
今回の調査で発見された円筒埴輪



平成24年度に発見された円筒埴輪



本巢市詳細遺跡分布調査報告書2012



35~53 船山81号墳出土 弥勒寺観
81号墳 東斜面

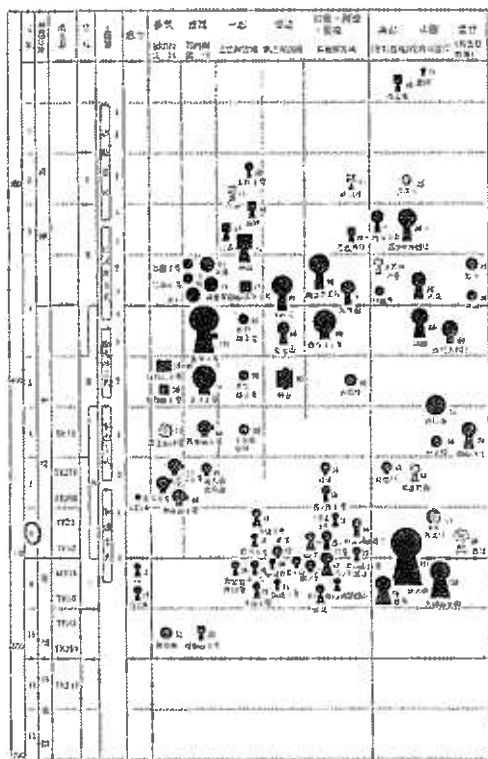


図1 船山81号墳における発見品の分布

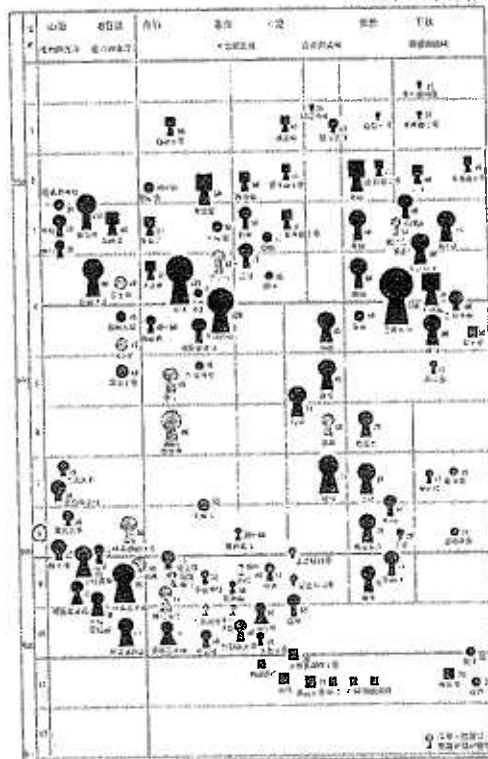


図2 船山81号墳における発見品の分布